

小児



コーナー

北 病院
病棟看護師
北原 政子



夏の病気

暑いですねー!皆さん、いかがお過ごしでしょうか?
今回は、こどもさんの夏に多い病気について、お話をしますね♪

「アデノウイルス感染症→プール熱」

39～40度の高熱が4～5日続き、のどの痛みが強く、目も赤くなります。

(そのため、咽頭結膜熱とも呼ばれます)

その他の症状として、頭痛・吐き気・腹痛・下痢などもあります。

夏に、プールなどで、学童の年齢層の間で流行する事が多いので「プール熱」と呼ばれる事もありますが、プールに入らなくてもうつりますし、夏以外の季節でも、この病気になる事はあります。

「ヘルパンギーナ」

乳幼児の間で流行する夏かぜの一種で、38～40度の熱が、2～3日続きます。のどの奥に小さな水ぶくれができて痛いので、食べられなくなり

ます。

どちらの病気も、のどの痛みで水分が飲めなくなったり、高熱が続いたりするので、脱水症になりやすいです。下記の点に注意して、元気がなく、ぐったりしている場合は、診療所・病院へ、必ず受診して下さいね。

【対処方法】

- ①食べ物:冷ましたおじや・とうふ・ゼリー・アイスクリームなど、口当たりの良いものを少量ずつ、無理せず食べましょう。
- ②水分:麦茶・こども用イオン飲料・冷めたスープなど。少量ずつでも良いので、できるだけたくさん、とれると良いです。

子どもさんの場合

(一日の目安は、体重1Kgあたり150～100ccとして下さい)

